



南極観測隊経験者に インタビュー



45 次越冬

あずま くみこ

東久美子さん

国立極地研究所 気水圏研究グループ教授
アイスコア研究センター・国際北極環境センター
(2016年7月現在)



南極では、どんな研究やお仕事をしたのですか？

昭和基地から 1000 km 離れたドームふじ観測拠点で行われた氷床コア掘削プロジェクトに参加して、氷床コアの分析をすることが一番重要な仕事でした。掘削プロジェクトを実施するために、飛行機で南極と南アフリカを移動する隊員達のために滑走路を作ったり、飛行機の燃料補給を行ったりもしました。また、昭和基地からドームふじ観測拠点までの旅行の準備をしました。具体的には旅行用の食料を準備したり、雪に埋まった橇を掘り起こして、燃料や食料を積んだりしました。この他、自分の研究とは直接関係ありませんが、昭和基地で新しい建物や衛星受信用の大きなアンテナを作るための建設作業のお手伝いもしました。



昭和基地付近での休日の散歩



初めて南極におり立ったときの感想をおしえてください。

長年の夢がかなって南極に来ることができて、感無量でした。でも、最初に降り立った昭和基地は、「雪や氷で覆われた真っ白な南極」というイメージとはかけ離れていました。夏だったために雪が融けて泥が至る所にありましたが、空気も埃っぽかったです。また、基地の建物やアンテナなどの建設作業も盛んに行われていたので、まるで工事現場のような雰囲気、びっくりしました。



一番印象に残ったこと・一番楽しかったことはなんですか？

工事現場のようだった昭和基地は、秋が来て陸地が雪に覆われ、海の水が凍ると、景色が一転しました。斜めに差す日の光が氷山に当たって、とても幻想的で美しい風景でした。越冬隊の仲間と一緒に海水の上をスキーで歩いたり、氷山の上で素麺流しをしたり、楽しい思い出がいっぱいです。冬が明けてドーム旅行が始まった時は、ワクワクしました。1000km の道のりは予想外に変化に富んでいました。ドームふじも、思い描いていたイメージとは少し違い、「百聞は一見にしかず」という諺の通りでした。皆さんも南極観測隊員になって、想像していたのとは少し違いかもしれない南極を体験してみませんか？